

工学研究科に日本原子力研究開発機構との新連携講座 「環境エネルギー材料学講座」が開設

工学研究科長 富山明男
工学研究科応用化学専攻 森 敦紀

工学研究科応用化学専攻に平成30年4月より日本原子力研究開発機構との新連携講座「環境エネルギー材料学講座」が開設される予定です。日本原子力研究開発機構は、原子力科学、原子力利用に資する物質・材料科学研究を推進しており、中性子、放射光などの先端的な微視的構造・機能解析ツールを駆使した研究を特徴とする日本唯一の研究機関です。一方、工学研究科応用化学専攻では、物質化学と化学工学分野の教育研究を統合的に行う中で、分子レベルのミクロな基礎科学から分子集合体である化学物質・材料への機能性の付与、物質の創製および生産技術への生物機能の工学的応用、実際のマクロな工業規模の製造、生産の技術やシステムなど、多様な広範囲の化学教育、研究を推進することにより産業界、学界において即戦力となる研究者、技術者を育成し輩出に努めてきました。しかし、近年の急速な化学技術の進歩をもたらした「材料革命」とも言える物質・素材・材料の高度生産技術達成は、化学の視点をより多様化し、一層の分野横断型「知の連携」を要求しています。応用化学の立場から持続可能型社会の実現に貢献するには、マテリアルサイエンスにおける物質創製、制御、機能発現において「中性子」や「放射光」などの先端的な解析ツールへとアクセスすること、俯瞰的な視野からの環境・エネルギー問題を捉えることのできる研究者、技術者の人材育成が急務であり、応用化学専攻と日本原子力研究開発機構が効率的に連携することで、より一層の教育効果、研究の発展が期待できます。また、原子力機構播磨地区の物質科学研究センターと神戸大学が協力して教育、研究を推し進めることは地域連携の観点からも極めて重要な役割を果たすものと期待できます。

連携講座には、日本原子力研究開発機構から教授として、原子力科学研究部門・物質科学研究センター 矢板 毅（やいたつよし）副センター長、岡本芳浩（おかもとよしひろ）グループリーダー、准教授に吉井賢資（よしいけんじ）研究主幹が就任予定です。連携講座では、応用化学専攻の基幹二講座ではカバーすることのできない領域での教育・研究に携わり、特に日本原子力研究開発機構が保有する中性子、放射光などの先端ツールを最大限に活用し、大学設備では実現できなかった測定や解析を支援することで本学の機能強化を図ります。また、日本原子力研究開発機構が大学院博士課程前期課程、後期課程学生の教育、研究指導に携わることで、教育を通じての社会貢献を目指すものです。

環境エネルギー材料学講座では、各教員が環境エネルギー材料学、環境エネルギー材料学演習（前期課程）、環境エネルギー材料学特論A～C（後期課程）を開講する予定です。

【問い合わせ先】神戸大学大学院工学研究科

総務グループ専門職員 筒井 真澄

TEL:078-803-6333 E-mail:eng-soumu@office.kobe-u.ac.jp